

決算概況発表（増収減益）

経常利益 200百万円

当期純利益 155百万円

J R 四国労組は、4月26日に開催した経営協議会において「2018年度決算」について説明を受けた。（詳細は別紙参照）

その主な内容は

「16期目の事業年度となる当期は、輸送機関の最大の使命である安全・安心輸送を基本に高速バス路線の輸送を中心に取り組み、収入の確保に努めた。

安全・安心の確保については、安全装置としてソナーシステムを新製車両とこれまでの装備車も合わせて77両に装備し、運行管理者・補助運行管理者研修、整備管理者研修、指導運転係研修、若年運転係のフォローアップ研修、事故惹起者等の特別研修の継続開催や、全国J Rバスグループ運転競技会への参加を通じて、安全・安心運転の確保についての意識改革、運転技量及び接客サービスの向上に努めた。

軽油価格は平成28年度下期頃から微増傾向が続いており、エコ運転を継続するほか、修繕費や業務経費全般の削減に積極的な取り組みを展開してきた。

以上の結果、当事業年度の業績は売上高 3,915,948 千円（対前期比 1.4%増）、営業利益 187,489 千円（対前期比 30.4%減）、経常利益 200,206 千円（対前期比 29.6%減）となり、特別損益を加減し法人税等を差し引いた当期純利益は 155,960 千円（対前期比 19.6%減）となった。

対処すべき課題として、引き続き安全・安心運転の推進に向け、ハード、ソフト両面から取り組み、衝突被害軽減装置等の標準装備、ソナーシステム等安全補助装置の拡大を行う。

さらに、バスジャック、南海大地震等の異常時対応訓練や車両火災の対応訓練を充実させると共に、災害時の社員等の安否確認システムの活用を進める。

高速バス部門は、路線毎のご利用状況や収支状況を踏まえた改善を模索する一方、西日本ジェイアールバス(株)との間で、高知・高松・徳島～福井・金沢・富山間の夜行高速バスの運行を京都での乗り継ぎによる管理の受委託方式により実施する準備を進める。

ローカルバス部門については、バス利用者減少傾向を見越した路線廃止の施策として美良布～大柵間の路線廃止を進める。

等の決算概況及び今後の計画、その他脳健診の実施結果について説明を受けた。

以 上

2018年度決算について

2019年4月

ジェイール四国バス株式会社

1 全般の状況

平成31年3月の月例経済報告では、「景気は、このところ輸出や生産の一部に弱さもみられるが、緩やかに回復している。先行きについては、当面、一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」としています。

このような経営環境のなか、16期目の事業年度となる当期は輸送機関の最大の使命である安全・安心輸送を基本に基幹事業部門である高速バス路線の輸送を中心に取り組み、輸送改善等を踏まえ、収入の確保に努めました。

一方、安全安心の確保については、引き続き、ドライブレコーダデータを共有化して、乗務員研修やヒヤリハット報告の映像としての活用を図りました。

さらに、安全装置としてソナーシステム（後方コーナー部異常接近警告）を、新製車両とこれまでの装備車も合わせて77両に装備できました。

バスの安全確保には、従来の感覚的な指導に対して、映像や数値による具体的な教育・訓練が不可欠と考え、教育訓練支援装置を従来の車両に取付け、研修をしないときは、営業車として運行できるようにしました。

運行管理者・補助運行管理者研修、整備管理者研修、指導運転係研修、若年運転係のフォローアップ研修、事故惹起者等の特別研修などの継続開催や10月に開催した当社の運転競技会や12月に開催された全国JRバスグループ運転競技会への参加を通じて、安全・安心運転の確保についての意識改革、さらに運転技量及び接客サービスの向上に努めました。

また、乗務員リーダー研修では、過去の事故映像やヒヤリハット映像の活用方や車両故障の対応や南海大地震対応等の題材に、8月に発生した車両火災の対応についての反省からその火災対応方を加えた研修を行い、異常時対応能力や危険予知能力の向上に努めました。

なお、軽油価格は平成28年度下期頃から価格微増傾向が続いており、エコ運転を継続するほか、修繕費や業務経費全般の削減に積極的な取り組みを展開しました。

以上の結果、当事業年度の業績は売上高3,915,948千円（対前期比1.4%増）、営業利益187,489千円（対前期比30.4%減）、経常利益200,206千円（対前期比29.6%減）となりました。

これに、特別損益を加減し法人税等を差し引いた当期純利益は155,960千円（対前期比19.6%減）となりました。

2 事業別の状況

ア 一般乗合旅客自動車運送事業（乗合バス部門）

4月から松山エクスプレス大阪号の時刻を改正し、「天山橋」バス停を新設しました。

5月には外国からのお客さまが観光・目的地への移動を円滑にできるように、松山エクスプレス大阪号や高知エクスプレス号並びになんごく号において外国語車内案内サービスを開始しました。

6月から松山、高知バスプラザ窓口の営業時間の短縮をおこないました。松山バスプラザ窓口に新たに高速バス自動券売機を設置し、稼働時間を大幅に延長することで、窓口営業時間外でもチケットの購入が可能となり、利便性を図りました。

6月中旬には高速バス車内にてフリーWi-Fiを利用できるサービスの導入路線を拡大するため、高松エクスプレス京都号や高松エクスプレス広島号を含む5路線に順次追加し、全車両に拡大しました。

7月1日からマドンナエクスプレス号に、バス停「余戸南インター」を新設し、時刻を改正しました。また、高松エクスプレス神戸号のダイヤ改正のほか、7月21日には、ドリーム号の4路線についても運賃改正を実施し、お客様の利便性の向上に努めました。

9月15日には、阿波エクスプレス京都号において片道運賃が、2,900円となるお得なきっぷ「早売1」を設定し利用増を目指しています。

2018年は、7月の西日本豪雨被災により、共同運行便の肩代わり運行を11月まで実施し、こうした災害影響もあり、高松エクスプレス広島号は、12月1日から土日祝2往復の増便運行を廃止して、5往復の毎日運行に改正しました。

11月1日に阿波エクスプレス神戸号の新神戸駅～神戸空港間の乗降取扱を開始しました。これは、神戸空港に乗り入れするポートライナーの利用混雑状態を緩和する為の神戸市からの要請に応えた施策となります。

12月1日のダイヤ改正で観音寺エクスプレス号は、1往復減便し6往復とするほか、一部区間の運転時分を見直ししました。

12月21日からは東京ディズニーランドへの乗り入れをドリーム号3系統（高松、徳島、高知）で新たに開始し、四国4県からの直通化が実現しました。

12月31日に高速バスの予約販売の形態が、インターネットやコンビニへ移行する流れが今後とも続くなか、窓口発売額の減少により、観音寺バスプラザを廃止しました。

2月1日の松山エクスプレス大阪号のダイヤ改正では、昼行便1往復を大阪から京都まで延長運転し、同時に便の愛称名を松山エクスプレス号に改称しました。

老朽化した高速バスの取替として4月に4列席タイプ4両（松山2両、高知2両）、3列席タイプ6両（高松2両、松山2両、高知2両）、12月に3列席タイプ2両（松山1両、高知1両）、2月に4列席タイプ1両（松山）の計13両を投入しました。今回の特徴は、ドリーム高松・松山号やオリーブ号等に使用する6両にオートマチック車を初めて取り入れました。更に安全装置も加わった新製車両です。

一方、ローカルバス路線では、4月1日に大栃線で、9月1日には久万高原線で出発時刻の変更を行い利便性の向上に努めました。

10月1日に大栃線は、土佐山田～美良布間3往復の系統を新設し、大栃間は9往復とするダイヤ改正を実施しました。

その後、1月7日には、最終便の発車時刻を変更し、より利便性を高めました。

利用者に好評な久万高原線「一日乗り放題きっぷ」を発売額を100円値下げして土日祝用は1,200円、平日用は1,400円に変更。一方、大栃線の「60歳以上限定大栃線一日乗り放題きっぷ」についても共に3月31日まで発売期間を延長しました。

以上の結果、当部門の運送収入は、高速バスの東京方面の増収があったものの京阪神方面とローカルバスが減収となったことから、3,756,286千円（対前期比2.1%増）となりました。

イ その他

駐車場収入の増収があったものの、一部ローカル路線を廃止したため、地域公共交通確保維持改善事業費補助金の減少等があり 159,662 千円（対前期比 13.9%減）となりました。

3 対処すべき課題

お客様から信頼され、安心して選択して頂けるためには、断トツの安全輸送とお客様の目線に立った接客サービスの提供が欠かせないという認識のもと、全社員が「安全綱領」を自分自身のものとしてプロ意識に徹し、引き続き安全・安心運転の推進に向けハード、ソフトの両面から取り組んでいきます。

車両については、オートマチック変速機搭載車の導入により、運転疲労の軽減効果を確認していくほか、安全装置では、衝突被害軽減装置等の標準配備、ソナーシステム等安全補助装置の拡大を行います。さらに運行管理者がリアルタイムにドライブレコーダの画像を確認できる通信型のデジタルタコグラフ・ドライブレコーダー一体機をドリーム号、オリーブ号、松山エクスプレス号、高知エクスプレス号の夜行高速バスに使用する 34 両に導入し、乗務員指導やリスク管理体制を充実させることとします。

さらに、バスジャック、南海大地震等の異常時対応訓練や車両火災の対応訓練を充実させると共に、災害時の社員等の安否確認システムの活用を進めます。

一方、働き方の見直しが課題となるなか、過労防止はもとより健康起因事故の防止に向けて、日頃から社員の健康管理意識を醸成するため、脳検診として 45 歳以上等一定の対象者に MR I 及び MR A 検査を実施しましたが、これら健康診断データへの関心度を高める施策を検討するほか、要精密検査の指摘を受けた場合の受診をしようようします。また、60 歳以降の雇用継続を見据えて、高年齢での体調の変化を捉えた観点からの指導を行います。

高速バス部門は、高速バスの利用増は、四国との人的交流を拡大することに結びつくことを念頭に、高速バス路線毎のご利用状況や収支状況を踏まえた改善を模索する一方、西日本ジェイアールバス(株)との間で高知・高松・徳島～福井・金沢・富山間の夜行高速バスの運行を京都での乗り継ぎによる管理の受委託方式により実施する準備を進めています。

なお、ドリーム号は、東京ディズニーランド乗り入れ後のご利用状況の推移をみると共に、引き続き系統全体での収支改善の模索を行います。

高速バスの販売部門では、利用環境が変化している乗車券予約受付や販売手段の変化に応じた適正要員の配置や効率的運営を模索していき、坂出バスプラザの廃止を進めるなど検討課題とします。

ローカルバス部門については、生活路線補助金の支援を受けつつ、路線のご利用実態に即した施策の展開による収支改善の模索に取り組みます。

大柘線には、沿線にアンパンマンミュージアムがあり、施設利用とバス利用は共存関係にはあるものの、路線全体としての利用動向を把握する中では、バス利用者減少傾向を見越した路線廃止の施策として美良布～大柘間の路線廃止を進めます。

事業運営に必要な施設等については、松山支店の乗泊所の改築やバス洗浄装置等の更新に着手します。

事務部門では、引き続き現業機関から本社への業務の集約・移管による配置要員規模の縮小を模索し、間接部門の業務運営の効率化や運行部門と販売部門のコスト削減とも合わせ、高速バス路線の収益性の向上に取り組めます。

その他部門の事業展開は事業の開拓が難しい状況ではありますが、課題としていく中で、現状の駐車場、広告などによる小規模の収入確保を維持していきます。

2018年度決算について

1. 比較損益計算書

(単位:百万円、単位未満切捨)

科 目	2017年度 A	2018年度 B	増減額 B-A	比率(%) B/A	主 な 増 減 事 由 等
営 業 収 益	3,862	3,915	52	101.4	
旅 客 運 輸 収 入	3,677	3,756	78	102.1	
高 速 収 入	3,587	3,676	89	102.5	夜行便 54、広島便 38、京阪神便 △2、島内・岡山便等 △1
貸 切 収 入	10	0	△ 10	0.0	貸切営業廃止(2017.10.1)
ロ ー カ ル 収 入	80	79	0	99.8	利用減等
そ の 他 収 入	185	159	△ 25	86.1	駐車場収入 1、生活維持路線補助金 △8、発売手数料収入等 △18
営 業 費 用	3,593	3,728	134	103.8	
人 件 費	1,495	1,490	△ 5	99.6	役員・社員 △8(月平均 222人→221人) 契約社員 3(月平均 60人→62人)
動 力 費	331	378	46	114.1	軽油価格の単価差 46(@87.87→@100.51) 消費率差等 △0
業 務 費	1,091	1,093	1	100.2	道路使用料 △9、施設使用料 △10、被服費 9、発売手数料等 11
修 繕 費	169	191	22	113.1	車両の修繕時期波動 13、建物修繕外注等 9
諸 税	9	11	1	114.1	不動産取得税等 1
減 価 償 却 費	495	564	68	113.8	営業用自動車償却費の増等
営 業 利 益	269	187	△ 81	69.5	
営 業 外 利 益	15	12	△ 2	80.0	貸付利息 1、雑収入(券売機負担金収入等) △3
経 常 利 益	284	200	△ 84	70.4	
特 別 利 益	21	42	20	200.0	補助金 △2、車両火災補償金 24、固定資産除却損等 △2
税引前当期純利益	305	242	△ 63	79.3	
法 人 税 等	111	76	△ 34	68.7	
法人税等調整額	0	9	9	—	
当 期 純 利 益	193	155	△ 37	80.4	

2. 比較貸借対照表

(単位:百万円、単位未満切捨)

科 目	2017年度 A	2018年度 B	増減額 B-A	主 な 増 減 事 由 等
流 動 資 産	1,998	2,093	94	
現 金 ・ 預 金	92	72	△ 19	期末普通預金の減
預 け 金	87	58	△ 28	CMSによる預け金減
短 期 貸 付 金	1,460	1,680	220	〃 貸付金増
未 収 運 賃	205	231	25	親会社、共同運行会社、委託発売業者等への債権
そ の 他	154	51	△ 102	前払費用 △75、繰延税金資産△54、未収金(補助金)等 27
固 定 資 産	1,380	1,407	27	
車 両 及 び 運 搬 具	942	944	2	既存車両減及び新製車両(高速バス 13両)購入の増
そ の 他	437	462	25	繰延税金資産(流動から固定へ) 54、建物等 △29
繰 延 資 産	0	0	0	
資 産 合 計	3,378	3,501	122	
流 動 負 債	701	700	0	
未 払 金 及 び 預 り 連 絡 運 賃	395	402	6	連結納税 △22、預り連絡運賃 △6、未払金等 34
未 払 税 金	38	26	△ 12	未払事業税 △6、未払消費税 △6
賞 与 引 当 金	120	116	△ 4	人単差等
そ の 他	146	155	9	未払費用 △11(軽油費精算見込計上)、リース債務等 20
固 定 負 債	493	479	△ 13	リース債務 △5、役員退職慰労引当金・退職給付引当金等 △8
負 債 合 計	1,194	1,180	△ 14	
純 資 産 合 計	2,184	2,320	136	当期純利益 155が増加及び配当 △19
負 債 ・ 純 資 産 合 計	3,378	3,501	122	

* 固定資産:車両及び運搬具にリース資産348百万円(19両)含む

【参考資料】

2018年度決算収支状況

会社名 ジェイアール四国バス株式会社

(単位:百万円、単位未満切捨)

項 目	2017年度決算実績 (A)	2018年度事業計画	2018年度決算実績 (B)	増 減 (B-A)	対前期比 (B/A)	記 事
営 業 収 益	3,862	3,883	3,915	52	101.4	
乗 合 収 入	3,667	3,695	3,756	89	102.4	
一 般 線	80	77	79	0	98.8	ローカル利用減
高 速 線	3,587	3,618	3,676	89	102.5	ドリーム号及び広島号増等
貸 切 収 入	10	0	0	△ 10	0.0	貸切営業廃止
運 輸 雑 収 入	185	187	159	△ 25	85.9	補助金減等
関連事業収入						
営 業 費 用	3,593	3,801	3,728	134	103.8	
人 件 費	1,495	1,532	1,490	△ 5	99.7	社員△8、契約社員3
動 力 費	331	364	378	46	114.2	軽油価格の増等 (@87.87→@100.51=@12.64)
業 務 費	1,091	1,145	1,093	1	100.2	道路使用料△9、施設使用 料△10、被服費等20
修 繕 費	169	179	191	22	113.0	修繕波動等
諸 税	9	9	11	1	122.2	不動産取得税等
減 価 償 却 費	495	569	564	68	113.9	営業用自動車償却費増等
一 般 管 理 費						
営 業 利 益	269	82	187	△ 81	69.5	
営 業 外 損 益	15	1	12	△ 2	80.0	雑収入減等
経 常 利 益	284	84	200	△ 84	70.4	
特 別 損 益	21	15	42	20	200.0	補助金(償却分)△2、 車両火災補償金等22
税引前当期利益	305	100	242	△ 63	79.3	
法 人 税 等	111	38	76	△ 34	68.5	
法人税等調整額	0	3	9	9	—	
当 期 利 益	193	58	155	△ 37	80.3	

1) 貸切収入に道路使用料収入を含んで計上

参考 2018年度営業概況

○運輸収入

高速バス部門では、台風等の影響による運休が多く（本年850便、前年221便）前年比推定38百万円の減収ありましたが、東京方面への共同運行会社便の代替運行や西日本豪雨災害の影響で松山～高松線・岡山線の利用増及び高松～広島線の代替運行での増収があり対前年89百万円増の102%となりました。

系統別では京阪神方面は香川、徳島は低調、高知は前年並み、愛媛は好調に推移しました。岡山、広島、四国島内、東京・名古屋系統も増収で推移しました。

ローカル部門は前年並みでした。

○高速バス輸送人員（便当たり人員）

便当たりの人員では、京阪神系統が香川が対前年99%、徳島が同100%、高知が103%、愛媛が同105%であり4県合計では対前年101%でした。東京・名古屋方面の夜行バス系統は対前年95%でした。

◎運輸収入

（単位：百万円、%）

輸 送 別	年度累計				
	本 年	前 年	対 比	計画	計画比
高 速	3,676	3,587	102%	3,618	102%
ロ ー カ ル	80	80	100%	78	103%
貸 切	—	10	—	—	—
合 計	3,756	3,677	102%	3,696	102%

○高速バス収入内訳

（単位：百万円、人）

		年度累計			便当人員（ 年度累計 ）		
		本年	前年	前年比	本年	前年	前年比
高松 EXP	高松～大阪	243	244	100%	17.3	17.1	101%
	高松～神戸	158	163	97%	14.5	14.9	97%
	高松～京都	101	112	90%	18.1	18.0	101%
	高松EXP計	502	519	97%	16.4	16.5	99%
観音寺EXP	観音寺・坂出～神戸・大阪	246	248	99%	15.3	15.5	99%
	香川～京阪神計	748	768	97%	16.3	16.4	99%
	高松～関空	37	38	98%	12.2	12.2	100%
阿波 EXP	徳島～大阪	319	320	100%	20.7	20.5	101%
	徳島～神戸	275	286	96%	22.8	23.3	98%
	徳島～京都	86	90	95%	20.4	20.2	101%
	阿波EXP計	680	696	98%	21.4	21.5	100%
高知EXP	須崎・高知～京阪神	600	597	100%	20.4	19.9	103%
松山EXP	八幡浜・松山～京阪神	392	373	105%	17.2	16.4	105%
岡 山	高知～岡山	36	34	104%	16.6	15.9	104%
	松山～岡山	58	53	109%	15.5	14.0	111%
	岡山計	94	88	107%	16.1	15.1	107%
広島	高松～広島	119	81	147%	18.3	17.4	105%
四 国 島 内	高松～高知	80	80	100%	13.4	13.2	102%
	高松～松山	172	164	105%	14.4	13.9	104%
	徳島～松山	73	73	101%	15.2	15.3	99%
	徳島～高知	29	29	98%	14.3	14.5	99%
	松山～高知	157	160	98%	18.4	18.7	98%
	四国島内計	511	506	101%	14.7	14.5	101%
東 京 ・ 名 古 屋	松山～東京	147	127	116%	21.2	23.3	91%
	高知～東京	86	88	97%	24.1	25.1	96%
	観音寺・高松～東京	160	172	93%	23.9	24.2	99%
	阿南・徳島～東京	55	7	738%	24.3	26.3	92%
	松山・高松・徳島～名古屋	46	45	103%	20.1	20.0	101%
	東京・名古屋計	495	441	112%	22.7	23.8	95%

脳健診の実施結果について

2019年4月26日
ジェイアール四国バス(株)

標題について、2018年度40歳以上の運転係・代務運転A指定者（40歳～44歳希望者）及び45歳以上のデスク職等を対象に脳健診（MRI・MRA）を実施致しました。その結果は下記のとおりです。

記

- 1 健診者数 176名
- ① 40歳以上50歳未満の運転係及び代務運転A指定者 72名
 - ② 50歳以上の運転係及び代務運転A指定者 58名
 - ③ 45歳以上のデスク職及び営業係等 46名

2 検診結果

【職種別、年齢別】

	異常なし	経過観察	再検査・要治療	計
① 40以上50未満の運転係	71	1		72
② 50以上の運転係	52	3	3	58
③ 45以上のデスク職等	33	9	4	46
合 計	156	13	7	176

運転係の経過観察及び再検査・要治療

- ・経過観察：血管小塊、血管狭疑、頸部小塊等
- ・再検査・要治療：血管狭疑、血栓予防、頸部狭疑等

【支店別】

	異常なし	経過観察	再検査・要治療	計
本 社	12	3	2	17
高 松 支 店	40	2	1	43
松 山 支 店	30	6	3	39
徳 島 支 店	32	1	1	34
高 知 支 店	42	1		43
合 計	156	13	7	176

3 検診病院及び費用等

本社・高松支店：高松画像診断クリニック 57名
 松山支店：貞本病院 39名
 徳島支店：高杉内科外科小児科脳外科病院 37名
 高知支店：青木脳神経外科 43名
 検査総費用 260万円